

「百年劇場」～マリー・アントワネットと音楽の旅～

【1】マリー（巽由美子）／ヴォルフィ（外谷美沙子）

巽、登場し、客席に話し始める。片手を後ろにまわして何か持っている。

巽　みなさま、こんにちは。（自己紹介。自分が小劇場で俳優をやっていることを紹介）最近、分かったことがあるんですけど、私、マリーアントワネットの生まれ変わりなんですよ。

間。

巽　分かりますよね、マリーアントワネット。フランス革命の時の王妃ですよ。私、そのマリーアントワネットの、生まれ変わり…

外谷、巽の傍らに近づく。

外谷　（遮って）大丈夫？

巽　ああ、みさこ！

外谷　お客さん前にして最初の台詞が妄想って、え、（客席に）困りますよね？

巽　違う違う！妄想じゃなくて。（客席に）あのね、マリーアントワネットって、演劇やってたんですよ。

外谷　は？

巽　ほんと。プチトリアノンっていう自分専用の宮殿に、100人以内ぐらいの小劇場作って、そこで自分も出演してたの。

外谷　え、ほんとに！？

巽　今もベルサイユにその劇場残ってるよ。

外谷　へえー！

巽　アントワネットはね、芸術家なんよね。音楽やオペラも好きで。けど宮廷でやるやつやと堅苦しくて嫌やん。だから、少人数で自分の好みの演出を反映できる劇場を作ったわけよ。

外谷　ああ、まさに小劇場だね。

巽　でしょう、それ知って、ああ、私マリーアントワネットの生まれ変わりやなあって

外谷　ちょっとまって。あの、マリーアントワネットが小劇場の人っぽいことは分かったんだけど、巽ちゃんが生まれ変わりは、ない。

巽　いやほんまにピンときたんよ、ああ私この人の気持ち分かる、もっと自由に生きてて、演劇や、音楽をやりたいかったんやなって

などと外谷に向かって力説しつつ、後ろの手に持った「ベルサイユのばら」の漫画が見える。

外谷 あの、何か持ってるよね。

《♪歌 ※BGM》宝塚のベルサイユのばら「愛～それは～」と歌われかける。

外谷 (音楽を止めて) あ、いいです！いいです、そんな、最初から妄想の BGM に使われなくていいです！多分、それ以上は著作権とかアウトだから、無し無し(歌手去る)

巽 というわけで、

外谷 え、どういうわけ？

巽 やろう、お芝居。はい台本(置いてあった台本を手渡す)

外谷 何？何が進んだの、今

巽 1789 年にパリのバスチーユ監獄が襲撃されてフランス革命が起こるんだけど、物語はその4年後。かつての王妃、マリーアントワネットが革命軍に捕まって、処刑を待つ牢屋のシーン。

外谷 本気だ…

巽 もちろん私、マリーアントワネット役ね。じゃあ、スタート。

外谷 わ、なんか、始まった。もう、わかったよ…(渡された台本を読む)

マリーアントワネット(以下、マリー) 1793年、10月16日。愛する妹のエリザベト。今あなたに最後の手紙をしたためています。たった今、死刑判決が下されました。私は今日、革命広場で処刑されます。…さようなら。思い残すことは、…思い残すことは、…ないかな、ほんとに。うーん、

ヴォルフィ(モーツァルト) (牢の扉を開ける) アントニア！

マリー あ、やば！もう処刑の時間。ちょっと待って、今、遺言、

ヴォルフィ 違う違う、僕だよ。覚えてない？マリア・アントニア。

マリー あれ、その呼び方、故郷のウィーンにいた頃の…

ヴォルフィ そう。あのとき、宮殿で一緒に遊んでくれた。

マリー 宮殿で？皇帝の娘である私と遊んでくれた男の子なんて、…あ！思い出した！天才ピアニストのヴォルフィね！

ヴォルフィ 正解！ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトです。

マリー なつかしい！30年ぶりかしら。あなたの作曲したオペラ、見たわよ。フィガロの結婚！面白かった。ウィーンでは大活躍だそうね。

ヴォルフィ うん、でもそれがさあ、…死んじゃったんだよね。一昨年。

マリー え？死んじゃったの？まだ若いのに。

ヴォルフィ 天才だったからさ、なんせ。天国の神様に見込まれたっていうか。

マリー そっかあ。じゃ、幽霊ってことなのね。

ヴォルフィ そんなかんじ。

マリー ちょうど良かった、私も今から処刑なの。天国に行ってもヴォルフィの音楽が聴けるなら、ちょっと楽しみだわ。

ヴォルフィ あ、それなんだけど、…あ、これ言っているのかな。

マリー え、何？そこまで言ったら気になるから言ってよ！

ヴォルフィ えっとね、ちょっと、(君は)地獄かもしれない。

マリー え！ちょっと地獄ってなに！嫌だ！  
ヴォルフィ あ、気にしないで。  
マリー 気になるよ！  
ヴォルフィ 「かも」だから。「かも」。あ、それに地獄って言ってもね、修行みたいなことすれば天国上がれるから。  
マリー 修行！？…って、どのぐらい？  
ヴォルフィ 贅沢した貴族はね、だいたい平均 100 年とか…  
マリー 100 年！？  
ヴォルフィ その間は音楽聞けなくなるかもしれないから。  
マリー わあ、最悪。  
ヴォルフィ だから、急いで。出発するよ。  
マリー え、どこに。  
ヴォルフィ 旅だよ。  
マリー 旅？  
ヴォルフィ 時間の旅。ちょっとだけ時間に隙間を空けてもらったんだ。迎えが来てる。  
マリー 迎えって、誰が？  
ヴォルフィ トルコの兵隊だよ。天国から来てくれた。  
マリー トルコ？素敵！  
ヴォルフィ さあ、アントニア姫。

二人、手を取り、牢から旅立つ。

## 《♪ピアノアンサンブル》モーツァルト「トルコ行進曲」

### 【2】ヴォルフィ／レオポルト／ナンネル

「1762 年、ウィーン。フランス革命勃発の 27 年前。」

ヴォルフィの父、レオポルト・モーツァルト、宮廷コンサートを終え旅立ちの準備。馬車を用意する。

レオポルト ナンネル！ヴォルフィ！出発するぞ。早く来なさい。  
ナンネル はい。  
レオポルト ナンネル、ほら馬車に乗れ。  
ナンネル お父さま、次はどこに行くの？  
レオポルト パリだよ。フランスの。  
ナンネル素敵ね！  
レオポルト ってあれ、ヴォルフィは？ナンネル、ヴォルフィはどこ行った？  
ナンネル 知らないわ。  
レオポルト 何すねてるんだ。また 6 歳の弟の方が演奏を褒められて悔しいのか？

ナンネル あの子のは演奏とは言わないわ。目隠ししたり後ろ向きで弾いたり、サーカスのピエロよ。

レオポルト ナンネル。

ナンネル 私だってザルツブルクの司教様には褒められたのよ。神様に喜ばれる、心のこもった演奏だって。なのにここの王宮の人たちときたら、あんな曲芸に天才ピアニストだって、拍手喝采して。

レオポルト あの子は特別だ。お前が比べることはないよ。

ナンネル だって。

レオポルト それにしても、遅いな。さてはまたウロチョロしてるのか。ナンネル、ちょっと、探して来てくれ。

ナンネル えー！？

レオポルト 良い子だから、頼むよ。

ナンネル こんな時だけお姉さん扱い。

ナンネル、去る。

レオポルト サーカスのピエロ、か。どうなるんだろうな、将来。あの子の才能は。

ヴォルフィ（6歳）、キラキラ星を歌いながら手でピアノを弾いているフリをし、スキップしてやって来る。

レオポルト ヴォルフィ、どこ行ってたんだ。もう出発だぞ。

ヴォルフィ はい。（歌い続けながら）

レオポルト 新しい曲かい。

ヴォルフィ うん。

レオポルト その年でもう作曲とはなあ。

ヴォルフィ あっ、そうだ、お父さん。アントニアも一緒に乗って良い？

レオポルト ん？誰だアントニアって。

ヴォルフィ 昨日コンサートの後で一緒に遊んだの。

レオポルト 王宮の召し使いか？

ヴォルフィ それでね、僕たち結婚するんだ！一緒に音楽の旅をするんだ。ねえ、良いでしょ？

レオポルト はは、結婚だって。それはまだお前には無理だよ。

ヴォルフィ でもアントニアは行きたいって。

レオポルト だから誰なんだそのアントニアって。

ヴォルフィ マリア・アントニアだよ、コンサートを聴いてくれた。

レオポルト マリア・アントニ…はあー！？

ヴォルフィ ん？

レオポルト お前、それはマリア・アントニアさまのことか？

ヴォルフィ うん！あのね、僕たち結婚するんだ！

レオポルト 冗談じゃないぞ。あの方は皇女、つまり皇帝陛下の姫君だ。将来は、しかるべき

…そうだな、例えばフランス王妃にでもなるお方だ。

ヴォルフィ エー、そうなの？

レオポルト お前と結婚なんてとんでもない。失礼があったら大変だぞ。気をつけなさい。

ヴォルフィ でも、一緒に旅が出来たらなあ。すごく楽しいのに。

レオポルト さ、もう馬車に乗りなさい。次は、パリに行くぞ。

ヴォルフィ、馬車に乗る。ナンネル、戻ってくる。

ナンネル あ、何よ、ヴォルフィったら！もう来てるじゃない。

レオポルト ああ、ナンネル。すまん。

ナンネル まったく、気ままなんだから。

ヴォルフィ、うとうとしながら、エア指揮で歌っている。

ナンネル なんか、夢の中で作曲してるわ。

レオポルト どんな曲なんだろうな。

ヴォルフィ あのね、魔法の国でねー

ナンネル 魔法の国だって。まだまだ子供ねー。

ヴォルフィ 鳥刺しの妖精がね、結婚式するんだ。歌って踊るんだー。

ナンネル お父さま、早く行きましょ。

レオポルト はいはい。出発。

レオポルト、馬車を出す。

## 《♪歌2・ピアノ伴奏》モーツァルト「パパゲーノとパパゲーナのARIA」

### [3] マリー／ジョゼフィーヌ／ナポレオン

「1809年、パリ。フランス革命勃発から20年後。」

テュイルリー宮殿で音楽会が上演されている。マリーアントワネット、拍手喝采。

マリー ブラボー！さすがヴォルフィ、楽しい曲ね！パパパッパッパ、って。ねえ、今のはなんて曲？（横を見る）あれ？ヴォルフィ？（いない）どこいったんだろう。もう、旅をしようって言ったのはあなたじゃない。…そういえば、あの時もそうだったわ。僕と結婚して、一緒に音楽の旅に出よう、って。（思い出して笑う）私、楽しみにしてたのに。次の日にはいなくなっちゃった。…あの時、王宮から逃げ出して、本当に一緒に旅をしたら、どんな世界が待っていたんだろう。ねー、いないの？ヴォルフィ？さっきの、なんていう曲？誰か、パンフレット持ってない？ねえ、パン…

現フランス皇后のジョゼフィーヌが出てくる。

ジョゼフィーヌ おまたせー。身代わり、ありがとう。

マリー わあ、え？誰？

ジョゼフィーヌ どしたの？パン？パンほしいの？

マリー いや、パンじゃなくて、パンフ。

ジョゼフィーヌ お腹空いたの？

マリー お腹…あ、すいたかも、そういえば。昨日から何も食べてないし。

ジョゼフィーヌ パン、ないわよ。

マリー あ、いいのいいの。パンはなかったら、お菓子食べるんで。

ジョゼフィーヌ え、なにそれ。今の、マリーアントワネットっばい！

マリー え？

ジョゼフィーヌ ウケる！（笑）

マリー ウケる？

ジョゼフィーヌ 身代わりさん、あなた面白いわね。あ、いいわよもう。休憩してきて。

マリー あの、あなたは誰？

ジョゼフィーヌ え？誰って…（人が来る気配に気がつく）あ、ごめん旦那来たわ。もう行って。ご苦労様。

マリー あの、パンフレットは。

ジョゼフィーヌ パンフレット？ああ、これのこと？（取り出す）はい、あげる。

マリー あ、ありがとう。

マリー、ジョゼフィーヌに押し出されて出て行く。パンフレットを見て「オペラ「魔笛」より。へえー」と言いながら去る。ジョゼフィーヌ、居住まいを正して座る。入れ替わりに、皇帝ナポレオンが来る。

ナポレオン ジョゼフィーヌ。あれ、誰かいなかった？

ジョゼフィーヌ あら、まさか。ナポレオン皇帝陛下。わたくし、ずっとここで音楽を楽しんでおりましたわ。

ナポレオン まあ、いいけど。あー、皇帝って忙しい。昨日も3時間しか寝られなくてさー。

ジョゼフィーヌ 珍しいわね、あなたが私のために、このテュイルリー宮殿で演奏会を開いてくださるなんて。

ナポレオン かつては、ルイ16世と王妃マリーアントワネットもここに住んでいた。今は、革命によって人々から皇帝に選ばれた私のものだがね。

#### 《♪ピアノソロ ※BGM》ベートーベン「交響曲第三番 英雄」冒頭部分

マリー、下手のピアノ演奏者に質問しようと前に立つ。演奏止まる。

ナポレオン ん、どうした？侵入者か！？

ジョゼフィーヌ あっ、あの人は私のお友達でー、そう、ご招待したのよ、私が！

ナポレオン なんか、自分の城みたいにふるまってない？

マリー (演奏者にタイトルを聞いてパンフレットを読む)「交響曲第三番」。作曲者は、ドイツのルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン。当初、革命軍を率いる天才軍師ナポレオンに賛同したベートーヴェンは、この曲に「英雄」というタイトルをつけてナポレオンに捧げるつもりだったが、ナポレオンが皇帝に即位したと聞いて怒り、それを破棄したらしい。へー。

マリー、他にも演奏者に質問しようと、下手へ去っていく。

ジョゼフィーヌ (ナポレオンに) まあ、いいじゃない。勉強熱心な人なの。

ナポレオン 演奏止まっちゃったよ。今のなんて曲だった？

ジョゼフィーヌ え？あー、えーと。

ナポレオン パンフレット持ってないの。

ジョゼフィーヌ (渡したことを思い出して) あ。

ナポレオン 真面目に聞いてくれてない…。やはりあれか。君には音楽より、お城とか庭園とかイケメンとかのほうがよかったか。

ジョゼフィーヌ なにか、言いたいことがあるのね。

ナポレオン ジョゼフィーヌ。愛しているよ。めっちゃ愛してるよ。離婚しよう。

ジョゼフィーヌ そんなことだろうと思った。

ナポレオン 新しく皇后を迎えることになりましたね。私も今や皇帝だからさ、それなりの政治的地位のある奥さんじゃないとアレで

ジョゼフィーヌ どの人？

ナポレオン オーストリアです。あのマリーアントワネットの兄弟の孫にあたる。

ジョゼフィーヌ それじゃああなたも、革命で倒された王室の親戚になるわけね。しかも敵対していたオーストリアの。

ナポレオン まあそこは、私の辞書に不可能という字はないんですよ。

ジョゼフィーヌ わ、なんか英雄発言。ウケる。

ナポレオン ウケる？

ジョゼフィーヌ 慰謝料いっぱいくれる？

ナポレオン あ、それはもう。

ジョゼフィーヌ じゃあしょうがないわね。

ナポレオン ジョゼフィーヌ… (涙目) 離婚、したくないよね。

ジョゼフィーヌ うん、すごくショック。

ナポレオン ちょっと、睡眠とってくる。(去る)

ジョゼフィーヌ おやすみ。(続いて去りつつ) …あ、いいわよ。次の曲、演奏して。

《♪フルート・ピアノ伴奏》バッハ「シチリアーノ」

#### 【4】バッハ／シューベルト

バッハ グーテンターク。天国からこんにちは。音楽を楽しんでいますか。お相手はヨハン・セバスチャン・バッハです。なんか、音楽のお父さん、とか言ってもらってるみたいで、いやそんなたいしたことしてないんですけどね。ま、確かに子供は 20 人、おりました。はは、照れますね。えー、ではさっそくこの曲からいってみましょう。

《♪歌・ピアノ伴奏》シューベルト「憧れを知る人だけが」

バッハ えー天国からお送りしております。バッハです。今、ウィーンの上空にいます。フランス皇帝のナポレオンは、せっかくウィーンから花嫁をもらったのに、そのあとは戦争に負けまくって、ものの 5 年で失脚してしまったんですね。かつては栄華を極めた人々も、こうして去って行くのですね。(何かに気づく) あれ、どうしたんですか、そんなとこ隠れて。

シューベルト すいません。人が多いとこちょっと、苦手で。今の、良い曲ですね。誰が作曲したんですか。

バッハ ああ、フランツ・シューベルトという人ですね。

シューベルト え、うそ！

バッハ ん？

シューベルト 作曲者、自分やった。

バッハ あなた、シューベルトさん？

シューベルト はい！

バッハ 自分で作った曲、忘れちゃったの。

シューベルト 忘れてました。かなり、いっぱい作曲したんで。

バッハ ひかえめな青年ですね。あ、なにかリクエストありますか。ここ、天国だから。なんでも好きなの、言って。

シューベルト じゃあ、「子守唄」！

バッハ わかりました。誰の曲？

シューベルト 自分です！

バッハ わりと自分好きなのね！

シューベルト はい！あと一、「野ばら」！

バッハ 誰の曲？

シューベルト 自分です！

バッハ あー、では、

シューベルト あともう一曲、「アヴェマリア」、これも自分です！では 3 曲続けてどうぞ！

《♪歌・ピアノ伴奏》シューベルト「子守唄」「野ばら」「アヴェマリア」

【5】上流階級の娘（アメリノジャンヌ）／通行人

「1832 年、パリ。フランス革命勃発から 43 年後。」

《♪ピアノ ※BGM》レ・ミゼラブルより「民衆の歌」冒頭部。